

議事概要

会議の名称	令和元年度第2回三田市子ども審議会
開催の日時	令和元年7月29日（月）15時～16時30分
開催の場所	ウッディタウン市民センター 大集会室
出席した委員の氏名	名須川知子会長、中西利恵副会長、尾上尚司委員、永井和浩委員、中島啓子委員、西さゆり委員、平岡浩二委員、横山博人員、小石川あゆみ委員、森脇明美委員、鳥山義文委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 高見智也子ども・未来部長、奥毅吾子ども未来室長、脇田実夫子育て応援室長 北中耕作健康推進室長、外岡明文学校教育部次長 横溝裕香子子ども政策課長、寛長雅博健やか育成課長、田谷芳央子ども家庭課長 長澤忠宏保育振興課長、後田哲也幼児教育振興課長、浅野晋司教育総務課長 山本直也学校教育課長、村岡智行教育研修所長、井上尚博健やか育成課副課長 櫻井かおり健康増進課課長補佐、山岡久哲子ども政策課係長、榎井清陽保育振興課係長 岡信子子ども政策課職員
傍聴人の人数	0名
議題	（1）第2期三田市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）における0～14歳人口推計及び需要見込みについて【資料1】
会議の概要	審議事項について、委員会の意見あり（議事概要参照）
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料1】第2期三田市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）における0～14歳人口推計及び需要見込みについて
連絡先	子ども・未来部 子ども未来室 子ども政策課 電話（079）559-5079

会議経過

1. 開会

【委員欠席5名 過半数以上の出席があり会議成立】

【傍聴者なし】

2. 議題

(1)第2期三田市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）における0～14歳人口推計及び需要見込みについて

会 長：幼児教育保育の無償化も始まることになり、量の見込みというのは難しいところもありますが、現状の子どもの状況も踏まえて見直していかなければならないと思います。この間世の中が非常に速い速度で変わっており、審議会の中でもいろいろとな意見をいただきました。それらを思い出しながら議論させていただければと思っています。では議題1について、事務局より説明をお願いします。

(1)について、事務局説明

会 長：今の説明について質問・意見があればお願いします。

委 員：資料を見せていただいて2点お聞きしたいと思います。1つは病児保育についてですが、実施している医院が1か所だけですが、他の医院での実施は計画されていないのでしょうか。働いている保護者はどうしても当日や夜中に熱を出しても朝になって休めないことが多かったり、子どもをみてもらえる人がいない場合は、こういうところを利用しなければうまくやっっていけないのが現状だと思います。その点でこの数字のあり方と、引き続き1か所だけになるのか、数字の中でどう考慮されているかお聞きしたいと思います。

事務局：利用の数としては近年微減となっています。それについては今後分析する必要があると思いますが、病児保育の特徴として季節によって利用者数が変わります。冬のインフルエンザや夏場の胃腸炎など感染症の多い時期は利用が多く、それ以外は利用が少なくなっており、現状では一日の定員4人となっていますが、それを増やしていくかどうかについては、今後検討したいと思います。

委 員：減少するという見込みについてどうかと思うのですが、伝染病の場合は1週間続けて休まなければならないこともあります。今年はヘルパンギーナ、手足口病が全国的に流行っていましたので、病児保育についてもっと積極的にほかの医院でも実施してほしいと

いう保護者の気持ちがあることをご理解いただきたいと思います。

会 長：私も三田市の規模ならもう1箇所あってもよいと思います。少し少ないのではないのでしょうか。要望は非常に多く、急に子どもを預けられない、急に対応が必要になるという問題ですので、もう少し増やす方向でお願いしたいと思います。要望としてお伝えいただきました。

委 員：放課後児童クラブについてですが、やめる人や途中から入る子どももいると思います。そういう流動的な数字を反映しての見込みなののでしょうか。

事務局：この数字については、4月の時点の数字となっています。通常は4月が最も児童数が多く、次第に減少して年度末になるという流れです。今のところ4月の最も多い数字を取っています。

委 員：その数字を把握されていると思うのですが、年間を通しての増減は把握されているのでしょうか。

事務局：実績として毎月数字を把握しています。過去のものについては増減の数字は記録しています。ただ推計としてはそこまで細かくは反映されていない状況です。

委 員：いまは地域であちこちで集まって一緒に宿題をしたりご飯を一緒に食べたりという活動もされていますので、児童クラブ以外の放課後の児童の健全育成の内容を把握して、ご報告いただけるとありがたいと思います。

事務局：放課後の子どもの居場所については、この数字の計画とは異なるところで、子ども食堂や放課後子ども教室などいろんな事業がありますので、それらはまた報告させていただきたいと思います。放課後児童クラブについては年度当初の最大の数字で推計をしていますので、途中での入所希望については受けられている状況です。今後、児童数は減るけれども利用ニーズは今後も高まっていくということで推計しています。

会 長：前回は話題になりましたが、事業報告の中では子どもの居場所について、これから5年間は今まで通りではないと思います。子どもが減ってもニーズは増えるというのが事務局の見込みでそれはその通りだと思います。

委 員：一時預かりの幼稚園型についてですが、保育無償化の影響を考えると利用が増加する見込みということで、子ども数は減るけれども利用者は増えるということですが、市立幼稚園

の預かり保育は園によって実施回数などが異なっています。今後回数を増やす予定はないでしょうか。

事務局：公立幼稚園の課題は様々あり、今年1月にあり方の基本方針を教育委員会で示し、3歳保育の開始や預かり保育の充実、認定こども園化など様々な課題をいただいています。現状では具体的な予定はありませんが、今後の検討課題と認識しています。

委員：市立幼稚園は2年しかなくて、その間にどう状況が変わるかは保護者にとって大きな課題だと思います。子どもが減っていることも大きな課題だと思いますが、2年の間にできるかどうか大切なことだと思います。無償化が予定されているところで早い対策をお願いしたいと思います。

会長：無償化は3歳からですので4、5歳は当然対象です。幼稚園についてはここでも何度も指摘してきましたが、認定こども園化についても一部進めるなど、人口の多い地域以外も含めて、公立幼稚園の改革については私も委員長として三田市に強くお願いしたいと思います。預かり保育もその一つだと思います。

委員：3号で多くの待機が発生しておりいろいろな対策を講じられていますが、ウッドィタウンで増えているといった場所の問題もあります。そういう状況で幼稚園のあり方検討に時間がかかり過ぎではないかと思います。すべてではなく、広い駐車場を持っている広野幼稚園だけでもこども園化を進めるとか、今ある建物をどう有効活用するのかといったことはそれほど猶予のある話ではないと思いますので、できることから早く体制を整えるといった進め方が必要だと思います。

会長：幼稚園についてほかにないでしょうか。お聞きしたいのですが三田市の合計特殊出生率はどのくらいでしょうか。全国で1.42、兵庫県が1.44だと思います。

事務局：現状で数字を持ち合わせていません。

会長：兵庫県では1.57を目指すと聞いています。加東市では1.67です。国が目指しているのは1.8で、なかなか届かない状況です。一番理想は2.0で、人口を維持していくことですが、少子化にストップがかかりません。出生率を上げようとするなら、保育サービスを充実させなければ若い人が入ってきません。第2、3子がほしいと思わせるような施策が必要だと思います。加東市でなぜ増えたかといえば、4万人の人口で支援拠点が4か所あります。三田の3分の1の人口で4か所あります。第2、3子を産む人が非常に多いです。母親の話を聞いて、ここに来たら2、3人目がほしくなったと聞きます。周囲の自

治体から転居してくるということも聞きます。そういうことが意外と効果がある。あそこなら子どもが育てやすいと。三田市でもネウボラで切れ目のない援助などをとってもらっていますが、三田市でも公立の認定こども園ができたとなると、転居してくる人も出てくると思います。今後増えないという見込みもあるでしょうが、若い人にどんどん入ってきてもらうということが市のためになると思います。そのあたりも今後の施策として子育て支援が市民の期待するところでもありますので、はっとするようなものがほしいと思います。

委員：公立幼稚園については、同時に教員の働き方改革が話題になっていて、行政として取組が困難であり、私立に委ねていくなど抜本的な対策が必要ではないかと思いながら聞いていました。質問ですが、三田駅前の開発や新三田の開発などが新聞に載っていますが、そのあたりには住宅整備の予定はないのでしょうか。それらが計算に入っていない理由はなぜなのかということと、1、2歳児の人口推計が約1,500人となっていますが、その中の45%くらいが量の見込みとなっていますが、全国の平均値としての希望者なのかどうかについてお聞きしたいと思います。

事務局：新たな三田駅、新三田の開発の件ですが、駅前のCブロックの開発では集合住宅が入る予定ですが、入居が始まるのが早くても令和7年度からということで今回の推計には反映していません。また新三田駅については商業施設の誘致の予定ということで、居住スペースがあったとしても想定されるのは従業員の社宅くらいで、子どもが入ってくる想定をされていませんでしたので考慮していません。

事務局：1～2歳児の保育利用率についてですが、31年現在では0歳が11.9%、1、2歳児が38%となっています。将来的には40%台半ばになるだろうと見ています。都心部よりは利用率は、三田市は少ない状況です。

会長：今後は増えていく可能性は多いと思います。どこも足りなくなっています。

委員：私の組織でも2人育休に入っていますが、保育園が見つからずさらに1年ということで、神戸市ですが苦勞しています。

会長：保育園をどう探すかが非常に大変だと聞いています。そのようなことがあるから子どもをあきらめるといったことがあると思いますので、保育サービスを充実させる必要があります。待機児童の解消についての見込みもお聞かせいただければと思います。

事務局：今年度の具体的な対策として、私立幼稚園が来年度認定こども園化に向けて準備を進め

ています。また小規模保育施設も1施設開設を予定しています。ニュータウンの待機児童が多くなっていますが、既存園での対策を今年度は考えていきたいと思ひます。この計画通り将来的に保育ニーズは増えますので、今後この審議会でもご審議いただきながら量の確保について進めていきたいと思ひます。

会 長：各種の努力で県としても300人くらい待機が減っているけれどそれでも1600人残っているそうです。三田市が非常に努力して1桁にしたという時に、待機児童がないと思ひて来たら、そうではなかったというアンケートもあり、そういうところに敏感になっていると思ひます。大変なところだと思ひますがよろしくお願ひしたいと思ひます。

委 員：仕事柄、障害のある子どもについて担当の方と話をしましたが、障害のある人は増加しているということ、地域で保護者も含め見守る、例えば子育ての支援であるとか、障害の有無に分け隔てなく共生できるように、課の隔てもなく協力して財源を確保してやっていければ、いろんなサービスが提供できるのではないかという話をしていました。課を超えて声を掛け合うということをお願ひしたいと思ひます。難しい部分もあると思ひますが、総合的に考えると協働、共生していく必要があると考えています。

会 長：これからのビジョン、事業計画としてという要望でした。何か事務局であればお願ひします。課を超えて共同して地域で見守っていくということについて。

事務局：今のご指摘は大事なことで、縦割りの弊害も言われています。三田市の規模の行政でいうと、行政も顔の見える関係の距離感強みだと思ひますので、今日は障害福祉課の所管は来ておりませんが、この計画を作るための庁内の連絡会議などもあり、まずは庁内で連携していくことを意識していきたいと思ひます。

会 長：その方向で意識されているということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

委 員：私も三田市立学校園のあり方審議会に出席していますが、中学校から順次、小学校、幼稚園と統合を進めていくと聞いています。しかし中学校について地元からの反対が多くゼロに戻すとか、もう一つではなかなか話が進まないということも聞いています。PTAとして統廃合が必要だと思ひているのに話が進まないという状況で、この委員会では早急に改善していかねばという思いになるのですが、市は本気で取り組んでくれているのか、意気込みが見えてこないと感じています。今の子どもからすればかけがえのない年だと思ひます。子育てしやすい三田という売りの中で引っ越してきて、うちはもう高校生になりますが、これから子育てしようという家庭では、明石に引っ越そうかという話も聞きます。

会 長：厳しいご意見をいただきました。行政は大変だと思いますが、ご意見があれば事務局からお願いします。

事務局：あり方審議会については、説明会で委員のお住まいの地域にも入って説明してきたところです。耳の痛い話ですが本気でやっております。動きが見えにくい話で庁内の調整などに時間がかかっていますが、議会の答弁でもあったように意見の違う地区もあり、一つは違う形で取り組みをする、もう一つは進めていくということで具体的に動いていきたいと考えています。時間がかかって申し訳ないですが、これからの動きを見ていただければと思っています。

会 長：委員としてこういう風にしてくれればということがあるのでしょうか。統廃合はやむを得ないとPTAは思っているということですが、行政にこうしてほしいということがあればお願いします。

委 員：市から提案いただいた内容を地域や学校、PTAで話し合っ、それが仮に提案が通らなくても、それで1歩進んだことになると思います。ではそれを踏まえて次はどうしようという話し合いができたらと思います。持ち帰ってまた提案するのではなく、一緒にもっと意見を出し合えば、ある程度のところは妥協しなければという形で進むのではないのでしょうか、私たちもよりよい子どもの環境になるようにという心で協力していきたいと思いますし、市としてもそういう強い思いで来てもらえれば絶対伝わると思います。今はなかなかそれが伝わっていないと思います。

事務局：ありがとうございます。これから始める地域協議会の中で、実際に各小学校区、中学校区の保護者、学校関係者、地域の方が参画する中で、具体的にいろんな課題も出てくると思いますので、それをどうするかをその場で意見も出し合いながら決めていきたいと思っています。当然行政からも入っていますので、こういうことができないかといった具体的な解決策や提案をまとめていければと思っています。そしてその地域協議会で一定の方向を示していきたいと考えています。いろんな方のご意見をいただきながらまとめていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

会 長：私も他の市で学校統廃合の委員に入っており難しいのはよくわかります。地域としてどうしていくかの話をしなければなかなかうまくいかないと思います。成功例として宇都宮市のことが映画になっていますが、学校をなくすということと、無くさないためにどうしたらいいかということで、地域が中心になって行政が後押ししてという映画がありました。こういう学校もあるのだということで、どこの地域からでも来れる、地域おこ

しもしているということで、実際に子どもの数が増えているということです。これらは量の見込みから遠い話に思えますが、子どもの教育としてかかわりの深い話です。

委員：量の見込みの話とは違うかもしれませんが、私立の園などではそこで働いている先生が自分の子どもを預けて一緒にみられるということを進めることで働く人を集めていけるということがあります。働いている人の安心感や働き甲斐を持てるような環境を広げていく考え方もこれからは必要ではないかと思います。もう1点は、先ほど話にあった障害児との交流などについて、なかなかそういう機会はないですが、行事に参加してもらい喜んで頂けるのを見るといいなと思います。若い人たちにも経験してもらいたいと思います。三田市だけで考えるのは難しいところもありますが、興味のあるところに声をかければ、地域で見守りの輪も広がるし、違った見方で障害児の子どもを支援していくことも可能かと思います。1回で出来ることではないでしょうが、少しずつ関わりをもてば市民の目も変わってくると思います。難しいお願いばかりですが、我々も一緒にがんばっていければと思います。ここは手伝ってよというように市民におろしてもよいと思います。そういう活動をしてもらえればと思います。

会長：子育ての期間は限られていますので、そこをサポートしてもらえれば安心して働ける、というお話です。

委員：他市の状況を見ても、0歳についてはどこも充足しています。増えているのは1～2歳です。ここの待機が私は気になります。これをどうするのが課題だと思います。統廃合についてはいろいろ反対も出て大変なものわかります。切り離すわけではないですが、車で送迎ができる場所など、どこかを認定こども園化することはできることだと思います。同時進行しながらできることからやっていくのが子育て支援だと思います。無償化になると預かり保育も無償化の対象になりますので、預かり保育が女性の働き方にマッチしていない園はますます利用が減ります。三田市は公立がそれにあたると思いますが、待機が出ていないからいいのだということではなく、子どもは減ってもニーズは減らないので、早急に対応策が必要です。土地から建物から新しいものを建てるのは非常に困難であるのはわかりますので、具体的にどうするかを検討する必要があると思います。

委員：子どもたちのキャンプをしてきましたが、その中では教師が子どもを指導する場面ももちろんありますが、子ども同士で育っていくことが非常に多いことを実感しています。いまはインクルーシブ教育といって、共生社会を目指すトレーニングの一つとして重点を置いて進めています。学校統廃合は経済的なことだけではなく、子どもの数が少なければ子どもの育ちに関わるので、子どものために進めなければならないことだと思います。

す。その意味では1～2歳児の定員について保育士の人数に縛られるところから子どもの数のありようが難しくなっていると思います。例えば公立幼稚園の問題についても、抜本的に、一つの公立園を指定管理に出すといったことをすることで解決できるのかどうか。見直していくことが必要だと思います。いたずらに1～2歳の施設をたくさん作って先々どうなるかということもありますので、先を見通しながら対策をたてていく、仕組みの問題で対応できる場所もあると思います。

会 長：ほかにいかがでしょうか。

委 員：需要見込みについては委員もおっしゃったように3号の1～2歳児が困難な状況が続くということで終わっているところが寂しいと思います。三田市ではJRがメインの交通機関で、子育てしているときに預けているところまで利用するのがバスなどでは、非常に不安だということがありますので、大胆に駅前に施設をつくるということが子育てしている人にはありがたいと思います。新三田については商業施設しか考えられていないということですが、駅前の駐車場などでも一時的に改装して、一部のスペースを保育園として運用するというのも一つかなと思います。子どもが減れば元の駐車場に戻せばよいので、柔軟に考えていただければと思います。また、関東でも子どもの医療費の無償化が大きいようです。1か月5歳児までは定額制など、それでも保護者のインパクトが強いということで、そういう面についても機会があれば考えていただいて、大きくアピールして人を呼ぶのも一つかと思います。

委 員：中学校の統廃合の問題は、やはりちょっと内容がもう一つ納得がいかないというか、話し合いの前にこういう理由でこうしたいということをはっきり出してほしいと思います。地域もそれを受け入れて、できるだけ早く進めてほしいと思っています。部活動もなかなか人数が少なくできないということで、子どもが部活なしで中学を過ごすのも考えられないように思います。

会 長：人は人と関わって育ちますしアクティブラーニングを進めるにも人数が必要になります。新しい教育要領に対応するにも、子どものため、人で育つということが学校教育であるということを強調して、進めていければと思います。話し合いをしていけば地域の人もわかってくれて、たいへんでしたが子どものことを考えたら早い方がよいと思います。それではこの議題については何か質問があれば事務局に連絡していただければと思います。本日の議事は全て終了しました。その他事務局から何かないでしょうか。

事務局：先ほどの件の補足ですが、本日は待機児童の具体的な対策はお示ししておらず、推計の考え方などをご説明して、数字をご確認いただき、今日のご意見を踏まえて具体的に保

育の受け皿対策などをお示しする中で議論をしていきたいと思ひます。本日はその前段階の話としてご理解いただければと思ひます。

事務局：委員の皆さんには長時間ありがとうございました。次回以降は今後の方策について議論いただけるようにしたいと思ひます。次回は8月26日に予定しております。本日はどうもありがとうございました。